令和元年度とよかわデジモニ第５回アンケート結果
「認知症に関するアンケート」

概要

■目的

市では、認知症の方・その家族が住み慣れた地域で快適に暮らせることを目指し、日々認知症の方とその家族への支援を推進しています。

今回、「認知症に関するアンケート」を実施し、認知症施策のさらなる充実を図るための参考とします。

■アンケート対象者

令和元年度とよかわデジモニ モニター100人

■回答期間

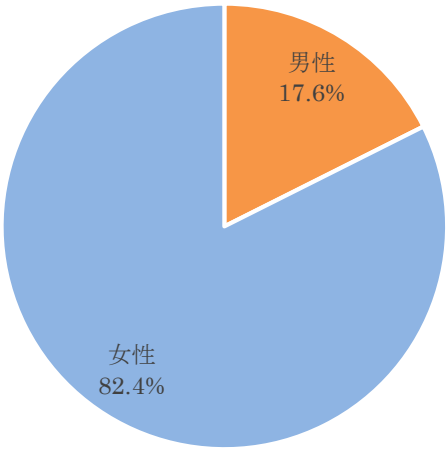
令和元年11月8日（金）から11月22日（金）まで

■回答者数（回答率）

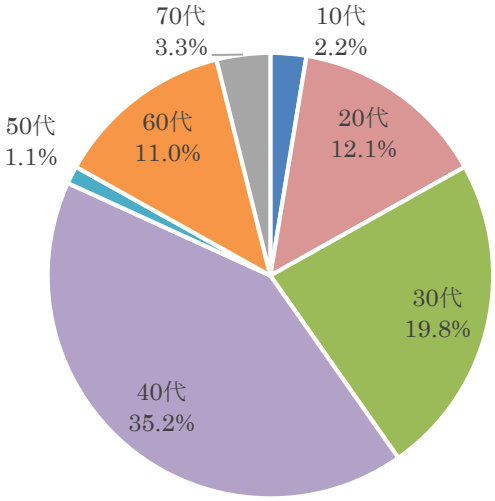
91人（91%）

■回答者の内訳

性別	回答数	%
男性	16	17.6
女性	75	82.4
合計	91	



年　代	回答数	%
10 代	2	2.2
20 代	11	12.1
30 代	18	19.8
40 代	32	35.2
50 代	15	1.1
60 代	10	11.0
70 代	3	3.3
合計	91	



※比率はすべて回答者数（今回は 91 人）に対する割合とし、百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が 100 にならない場合があります。

担当課の総論

「認知症初期集中支援チームの認知度」（問１）について、「知っていた」（8.8%）、「認知症ガイドブックの認知度」（問２）について、「知っていた」（13.2%）、「認知症カフェの認知度」（問３）について、「知っていた」（37.4%）、「認知症サポーターの認知度」（問４）について、「知っていた」（44.0%）、「豊川市いなりんお守りの認知度」（問５）について、「知っていた」（18.7%）、「高齢者地域見守りネットワークの認知度」（問６）について、「知っていた」（19.8%）で、平成30年度に活動を開始した認知症初期集中支援チームの認知度が最も低く、平成17年度から養成を開始した認知症サポーターの認知度が最も高い結果でした。

また、認知症の認知度として、「若年性認知症の認知度」（問７）について、「知らなかった」（8.8%）という結果でした。一方、「言葉を知っていた」（62.6%）、「意味まで知っていた」（48.4%）という結果でした。

認知症への関心が高い反面、認知症に関する事業の認知度の低いことから、周知方法について検討が必要であることが分かりました。

「認知症になっても暮らしやすいまちにするために必要なこと」（問９）は、「認知症に関する相談窓口の充実」（67.0%）、「近所のつながり」（65.9%）、「介護サービスの充実」（60.4%）の順に高い結果となりました。加えて、「町内会の加入の有無」（問８）について、「加入している」（80.2%）という結果から行政だけでなく地域の皆様と一体となって認知症についての課題を解決していく取り組みが必要となることが分かりました。

また、その他意見として、「市主催の無料認知症検診」、「若年においては就業のサポート」とあり、早期発見への対応、若年層への支援についても課題があることを改めて感じました。

これらの意見を参考に、より多くの市民の方、認知症の方とその家族が快適に暮らせるよう充実した認知症施策の推進を図ります。

介護高齢課

※比率はすべて回答者数（今回は 91 人）に対する割合とし、百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が 100 にならない場合があります。

アンケート集計結果

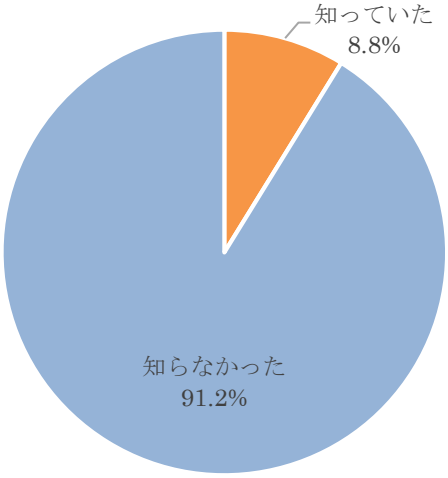
※比率はすべて回答者数（今回は91人）に対する割合とし、百分率（%）で表し、小数点第２位を四捨五入して算出しています。このため、合計が100にならない場合があります。

※その他・自由意見については、原則ご記入いただいた原文のまま記載をしていますが表記誤りなどについては訂正し、アンケート内容と関係ない意見については掲載しない場合があります。

【1】認知症初期集中支援チームを知っていますか

認知症初期集中支援チームとは、認知症の早期発見・早期対応を目指し、専門医、保健師、社会福祉士などの医療・介護の専門スタッフが症状に合わせながら、概ね 6 カ月間の集中的なサポートを行うものです。

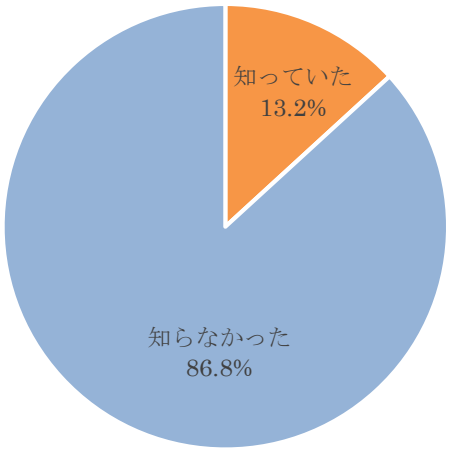
項　目	回答数	%
知っていた	8	8.8
知らなかった	83	91.2
合計	91	



【2】認知症ガイドブックを知っていますか

認知症ガイドブックとは、認知症やその介護についての知識、豊川市における医療・介護サービスなどについて紹介するものです。

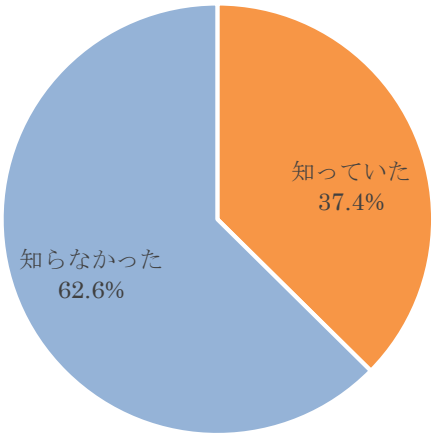
項　目	回答数	%
知っていた	12	13.2
知らなかった	79	86.8
合計	91	



【3】認知症カフェを知っていますか

現在、市内に 10 か所ある認知症カフェでは、認知症の方とその家族や地域の方などが集まり、お茶を飲んだり、おやつを食べたりしながら、気軽に情報交換やレクリエーションなどが行えます。また、専門家が常駐しており、認知症の予防や介護などの相談もできます。

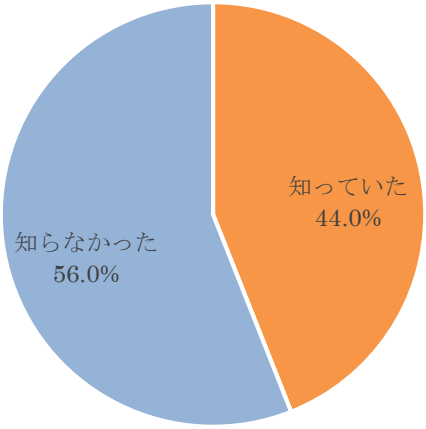
項　目	回答数	%
知っていた	34	37.4
知らなかった	57	62.6
合計	91	



【4】認知症サポーターを知っていますか

認知症サポーターとは、認知症サポーター養成講座を受け、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る人のことです。

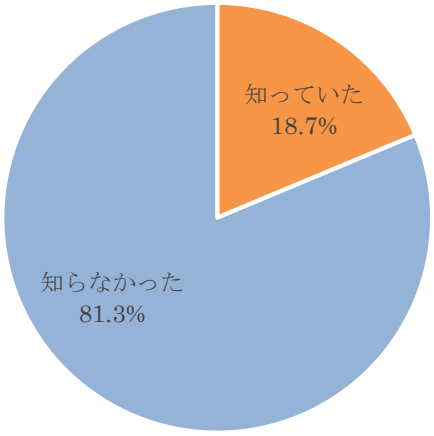
項　目	回答数	%
知っていた	40	44.0
知らなかった	51	56.0
合計	91	



【5】いなりんお守りを知っていますか

市では、高齢者の安全と安心のため、「豊川市いなりんお守り（豊川市高齢者見守りキーホルダーまたはカード）」を希望者に配付しています。名前や緊急連絡先をあらかじめ登録し、登録番号がついたキーホルダー等を持ち歩くことで、緊急時に速やかに身元確認ができ、親族等の緊急連絡先などを警察・消防・医療機関等へ情報提供することで、迅速かつ適切な対応を行うことができます。

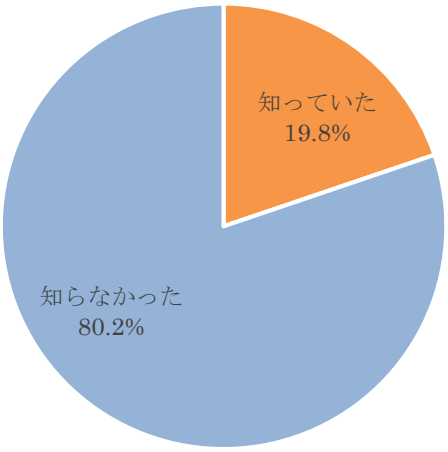
項　目	回答数	%
知っていた	17	18.7
知らなかった	74	81.3
合計	91	



【6】高齢者地域見守りネットワークを知っていますか

高齢者地域見守りネットワークとは、地域の多様な方々や組織・団体の皆様の登録により構成しており、日頃の見守りが必要な高齢者の把握、行方不明者発生時の情報提供、捜索、一時保護の円滑な実施を可能にするものです。

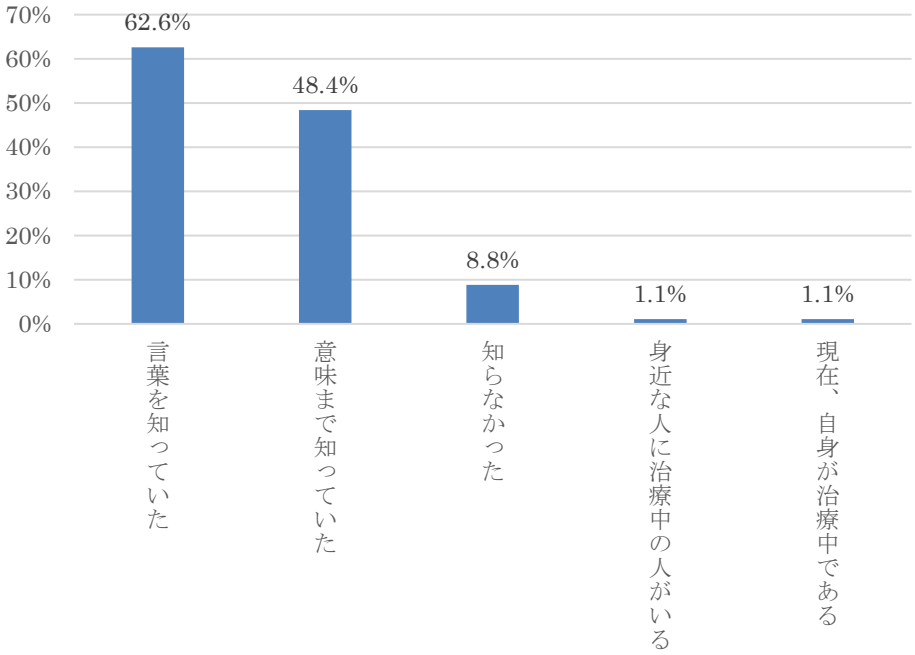
項　目	回答数	%
知っていた	18	19.8
知らなかった	73	80.2
合計	91	



【7】若年性認知症を知っていますか（1つ選択）

一般的に認知症は高齢者に多い症状ですが、65 歳未満で発症した場合、若年性認知症とされています。（複数選択可）

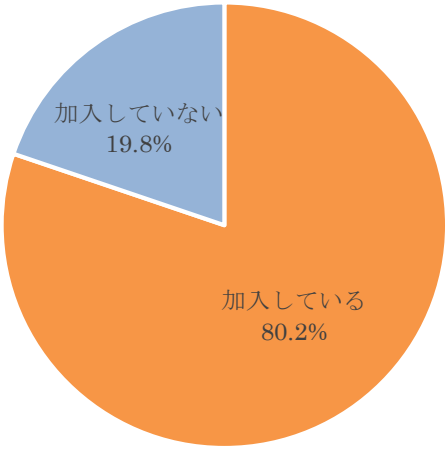
項　目	回答数	%
言葉を知っていた	57	62.6
意味まで知っていた	44	48.4
知らなかった	8	8.8
身近な人に治療中の人がいる	1	1.1
現在、自身が治療中である	1	1.1

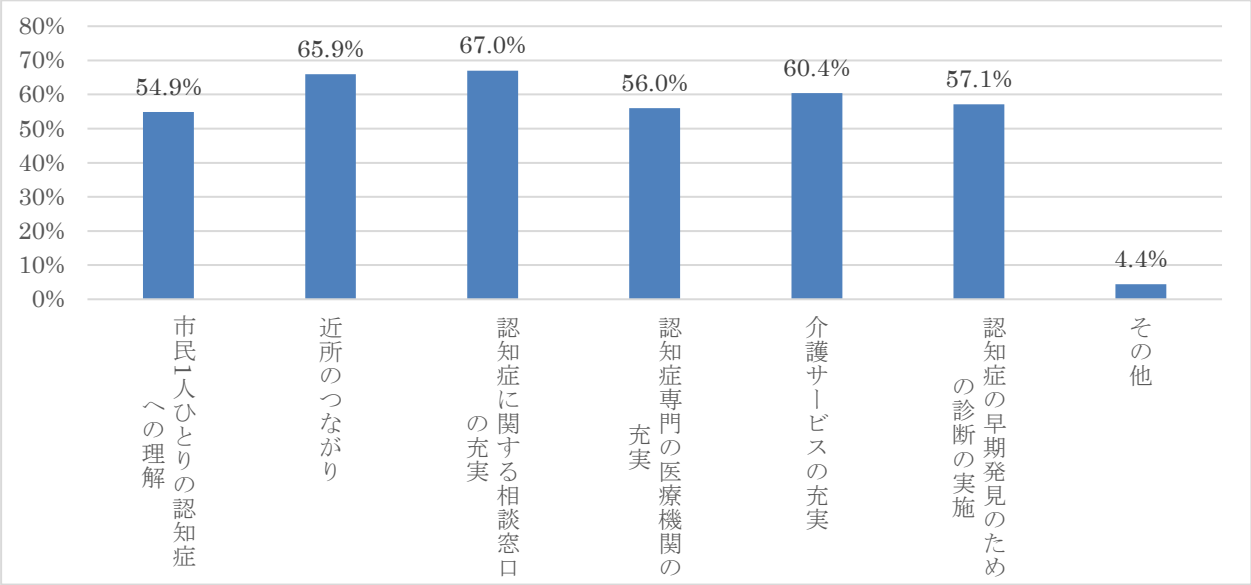


【8】町内会に加入していますか（1つ選択）

市では、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるまちを目指しています。町内会では、住みよい豊かなまちづくりを目指して、地域における様々な問題解決に取り組むとともに、そこに住んでいる方の福祉の向上に努めている自主的な団体のことです。

項　目	回答数	%
加入している	73	80.2
加入していない	18	19.8
合計	91	



【9】認知症になっても暮らしやすいまちにするために、何が必要だと思いますか（複数選択可）

項　目	回答数	%
市民一人ひとりの認知症への理解	50	54.9
近所のつながり	60	65.9
認知症に関する相談窓口の充実	61	67.0
認知症専門の医療機関の充実	51	56.0
介護サービスの充実	55	60.4
認知症の早期発見のための診断の実施	52	57.1
その他 ・町内会加入者が少なく、市として対策を考えてほしい ・市主催の無料認知症検診 ・独居高齢者への対応 ・若年者においては就業のサポート	4	4.4